

調査の概要

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関しての世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

(2) 調査項目

- 1) 新型コロナウイルス感染症について
- 2) 受動喫煙防止対策について
- 3) 自転車の利活用について
- 4) エネルギーに関する意識について
- 5) 北海道の広報活動について
- 6) 人権について
- 7) 農業・農村の振興について

(3) 調査の方法

- | | |
|---------|--------------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域 |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満18歳以上の個人 |
| 3) 標本数 | 1,500 サンプル |
| 4) 地点数 | 150 地点 |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収及びweb（スマホ）による回答 |
| 7) 調査期間 | 令和2年（2020年）9月 |

(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

標本数	1,500
有効回収数（率）	848（56.5%）

2 調査回答者の特性

区分	総数	比率
【総数】	848	100.0%
【圏域別】		
道央広域連携地域	543	64.0%
道南連携地域	69	8.1%
道北連携地域	83	9.8%
オホーツク連携地域	43	5.1%
十勝連携地域	54	6.4%
釧路・根室連携地域	49	5.8%
無回答	7	0.8%
【人口規模別】		
札幌市	331	39.0%
人口 10 万人以上の市	208	24.5%
人口 10 万人未満の市	148	17.5%
町村	149	17.6%
無回答	12	1.4%
【性別】		
男性	372	43.9%
女性	455	53.7%
回答しない	21	2.5%
【年代別】		
18～29 歳	82	9.7%
30～39 歳	138	16.3%
40～49 歳	209	24.7%
50～59 歳	196	23.1%
60～69 歳	163	19.2%
70 歳以上	55	6.5%
無回答	5	0.6%

区分	総数	比率
【職種別】		
自営業（農林漁業）	8	0.9%
自営業（商工サービス業）	46	5.4%
自由業	23	2.7%
事務職系	245	28.9%
労務職系	157	18.5%
主婦	167	19.7%
学生	16	1.9%
無職	87	10.3%
その他	92	10.9%
無回答	7	0.8%
【市町村居住年数別】		
1 年未満	12	1.4%
1～5 年未満	46	5.4%
5～10 年未満	66	7.8%
10～20 年未満	118	13.9%
20 年以上	601	70.9%
無回答	5	0.6%

注) 個々の比率（百分率）は、少数第 2 位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

3 サンプリング

母集団	道内に居住する満18歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、深川市、南幌町、長沼町、★小樽市、倶知安町、仁木町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、伊達市、洞爺湖町、安平町、新冠町、新ひだか町

【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、森町、八雲町、厚沢部町

【道 北】 ★旭川市、名寄市、富良野市、上富良野町、中富良野町、留萌市、稚内市、浜頓別町

【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、大空町

【十 勝】 ★帯広市、音更町、芽室町、中札内村、幕別町、池田町

【釧路・根室】 ★釧路市、釧路町、標茶町、根室市、中標津町

注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市

② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の市」「人口10万人未満の市」「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、令和2年5月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、令和2年6月1日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占有率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R2. 5. 31 現在)	選挙人名簿 登載者数 (R2. 6. 1 現在)	標本数	地点数
道央広域 連携地域	札幌市	1,962,331	1,679,784	550	55
	人口10万人以上	405,152	348,171	110	11
	人口10万人未満	668,846	575,607	190	19
	町村部	290,257	252,554	100	10
道南 連携地域	人口10万人以上	255,551	222,830	70	7
	人口10万人未満	45,898	38,735	10	1
	町村部	122,956	107,217	40	4
道北 連携地域	人口10万人以上	333,771	287,857	90	9
	人口10万人未満	121,466	104,865	40	4
	町村部	140,720	120,501	30	3
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	116,587	100,573	30	3
	人口10万人未満	56,247	48,569	20	2
	町村部	103,678	89,085	30	3
十勝 連携地域	人口10万人以上	165,434	141,847	50	5
	町村部	170,264	144,192	50	5
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	167,859	145,236	50	5
	人口10万人未満	25,301	21,901	10	1
	町村部	107,157	91,032	30	3
合計		5,258,321	4,520,556	1,500	150

4 調査地点一覧

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	空知総合振興局	岩見沢市	美園 4 条 8 丁目
			緑町 1 丁目
		美唄市	東 3 条南 6 丁目
		滝川市	明神町 4 丁目
		砂川市	吉野 2 条南 8 丁目
		深川市	あけぼの町
		南幌町	北町 5 丁目
	長沼町	宮下 2 丁目	
	石狩振興局	札幌市中央区	北 12 条西 15 丁目
			北 3 条西 21 丁目
			北 5 条西 23 丁目
			北 8 条西 24 丁目
			円山西町 3 丁目
			南 1 条西 19 丁目
			宮の森 3 条 5 丁目
		札幌市北区	あいの里 4 条 5 丁目
			北 12 条西 2 丁目
			北 26 条西 2 丁目
			北 39 条西 7 丁目
			篠路 3 条 5 丁目
			新川 4 条 8 丁目
			太平 2 条 4 丁目
		屯田 5 条 8 丁目	
		札幌市東区	北 12 条東 11 丁目
			北 27 条東 12 丁目
			北 38 条東 14 丁目
			北丘珠 4 条 2 丁目
			東雁来 10 条 1 丁目
			東苗穂 14 条 2 丁目
	伏古 10 条 1 丁目		
札幌市白石区	川北 2 条 1 丁目		
	川下 3 条 6 丁目		
	菊水 3 条 3 丁目		
	菊水元町 5 条 1 丁目		
	東札幌 1 条 5 丁目		
	米里 3 条 1 丁目		

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	札幌市豊平区	月寒中央通 3 丁目
			月寒東 1 条 15 丁目
			豊平 7 条 10 丁目
			西岡 1 条 10 丁目
			平岸 8 条 13 丁目
			美園 6 条 6 丁目
		札幌市南区	川沿 12 条 3 丁目
			澄川 1 条 2 丁目
			真駒内東町 1 丁目
			南 37 条西 11 丁目
		札幌市西区	琴似 3 条 3 丁目
			西野 11 条 9 丁目
			八軒 3 条西 4 丁目
			八軒 8 条西 4 丁目
			発寒 9 条 11 丁目
		札幌市厚別区	厚別北 4 条 3 丁目
			厚別中央 2 条 3 丁目
			厚別西 3 条 4 丁目
			上野幌 2 条 5 丁目
		札幌市手稲区	曙 5 条 3 丁目
			稲穂 2 条 7 丁目
			新発寒 2 条 3 丁目
			手稲本町 5 条 4 丁目
		札幌市清田区	北野 1 条 2 丁目
			北野 6 条 1 丁目
			真栄 4 条 4 丁目
		江別市	いずみ野
			大麻新町
			上江別西町
		千歳市	稲穂 3 丁目
			里美 5 丁目
			日の出 3 丁目
		恵庭市	北柏木町 1 丁目
桜町 3 丁目			

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	北広島市	南町1丁目
			大曲中央3丁目
		石狩市	花川南6条4丁目
			樽川7条2丁目
	当別町	太美町	
	後志総合振興局	小樽市	桂岡町
			東雲町
			星野町
		倶知安町	南6条西2丁目
		仁木町	北町1丁目
		余市町	黒川町13丁目
	胆振総合振興局	苫小牧市	ウトナイ北3丁目
			王子町1丁目
			春日町3丁目
			啓北町1丁目
			三光町3丁目
		室蘭市	大沢町1丁目
			港北町2丁目
		登別市	片倉町5丁目
		伊達市	館山町
洞爺湖町		青葉町	
安平町	安平		
日高振興局	新冠町	字北星町	
	新ひだか町	静内旭町1丁目	
道南連携地域	渡島総合振興局	函館市	入舟町
			大町
			釜谷町
			北浜町
			深堀町
			杉並町
			松陰町
	北斗市	七重浜4丁目	
	七飯町	字峠下	
	森町	字新川町	
	八雲町	落部	

圏域	抽出市町村		抽出地点	
道南 連携地域	檜山振興局	厚沢部町	新町	
道北 連携地域	上川総合振興局	旭川市	8条西4丁目	
			曙3条5丁目	
			住吉6条1丁目	
			神楽岡13条5丁目	
			神居7条16丁目	
			川端町4条8丁目	
			春光3条9丁目	
			忠和6条3丁目	
			東光14条7丁目	
		名寄市	東4条南9丁目	
		富良野市	栄町	
		上富良野町	中町2丁目	
		中富良野町	北町	
	宗谷総合振興局	稚内市	中央1丁目	
		浜頓別町	緑ヶ丘2丁目	
	留萌振興局	留萌市	宮園町3丁目	
オホーツク 連携地域	オホーツク総合振興局	北見市	高栄西町9丁目	
			未広町	
			光西町	
			網走市	駒場南2丁目
			紋別市	幸町7丁目
			美幌町	字元町
			遠軽町	西町3丁目
		大空町	女満別夕陽台2丁目	
十勝 連携地域	十勝総合振興局	帯広市	西17条南41丁目	
			西22条南4丁目	
			東12条南4丁目	
			緑ヶ丘3条通6丁目	
			南の森東4丁目	
			音更町	共栄台西13丁目
			芽室町	東6条7丁目
			中札内村	東1条北3丁目
			幕別町	本町
			池田町	西1条8丁目

圏域	抽出市町村		抽出地点
釧路・根室連携地域	釧路総合振興局	釧路市	芦野5丁目
			大川町
			音別町川東1丁目
			千歳町
			堀川町
	釧路町	北都1丁目	
	標茶町	麻生9丁目	
	根室振興局	根室市	西浜町3丁目
		中標津町	西町7丁目

5 この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
848	±2.91%	±3.89%	±4.45%	±4.76%	±4.86%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が848で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±4.76%以内（55.24～64.76%）である」とみることができる。

- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P5～P9）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。

【職種別】の種別による状況において、「自営業（農林漁業）」の回答比率が上位2項目となった場合、回答者数が少なく標本誤差が大きいことから、「自営業（農林漁業）」を除外した記述とした。

なお、自転車の利活用についての間3、問6は選択肢で分けた分析としたため「自営業（農林漁業）」を含めた記述としている。